

守り伝える世界遺産

関係自治体が課題共有

副会長に 斑鳩町長ら 要望活動やPR

「連携会議」発足会

国内11件のユネスコ世界文化遺産の地元市町村の首長やまちづくりに携わる専門家が文化遺産の長期的な保護や観光活性化などの共通課題に取り組む「世界文化遺産地域連携会議」の発足会が7日、東京都千代田区の都道府県会館で開かれ、初会合を開いた。各地域が抱える課題について意見交換を行い、1年後をめどに国への要望活動を行うほか、国内外でのPRなど共同事業の実施を目指す。



小城・斑鳩町長らが出席した世界文化遺産地域連携会議の発足会＝7日、東京都千代田区の都道府県会館

会長に門川大作京都市長、副会長には小城利重斑鳩町長や仲川元庸奈良市長ら4人の首長が就任。会員は自治体職員や民間の文化財・観光関係者、学者などで約90人、発足会には約50人が出席した。

平成5年に「法隆寺地域の仏教建造物」（斑鳩町）と「姫路城」（兵庫県姫路市）が国内で初登録された後、11力所が登録されたが維持保全や周辺整備、持続的な観光の推進という課題について各自治体間で情報交換する場がなかった。同会は、情報共有▽共同で国などへの要望▽事業連携▽を3本柱に「無理のないゆるやかな連携」を目指す。

門川会長は「千年後

に伝えるために連携する。文化遺産の保全や活用に向け、自治体も縦割りを打破して協力しなくてはいけない。成功事例を交換しながら力強く前進したい」とあいさつ、小城副会長は「国への補助金要望などで連携したい。また、岩手県の『平泉』の登録を契機に東日本を応援していきたい」と語った。また、会員で河合町出身の読売旅行出版社（東京都中央区）社員、熊崎俊介さん（32）は「地域で熱

い思いを持つ若い人を巻き込んでいきたい」と話した。

出席した首長や有識者からは「地域住民が誇りを持って遺産を守っていく機運を高める

ことが重要だ」「世界遺産に限らず、さまざま切り口で連携を進めたい」などの意見が出た。

主な関係会員▽北岡篤吉野町長、森本靖

順天川村長、朝広佳子
読売奈良ライフ代表、
上野誠奈良大学教授、
辰巳裕NPO奈良好き
人のつどい理事長、八
坂豊奈良ロイヤルホテル社長

世界文化遺産地域連携会議

地元首長ら発足会

市長に
副会長

世界文化遺産を持つ関係地域が観光振興や遺産継承の在り方を話し合う「世界文化遺産地域連携会議」の発足会が7日、

東京都内で開かれた。日本では初めて登録された「姫路城」のある姫路市を含む自治体や研究者、住民団体、メディア関係

者ら約50人が集まった。同会議は、「古都京都の文化財」など国内11件の文化遺産を核としたまちづくりが目的。京都市の門川大作市長が会長に選ばれ、「人類の財産を千年後にも残せるよう、一致協力したい」とあいさ

つ。副会長には姫路市の石見利勝市長が就いた。姫路市の担当者は、大天守の修理見学施設「天空の白鷺」で観光客を誘致した取り組みを紹介。同市のNPO法人理事の中山栄一郎さんは、姫路城下の寺院修復など名跡

の保全活動を報告した。参加者からは「東日本大震災後、訪日を敬遠する海外の観光客向けに、文化遺産の魅力を発信すべき」「文化遺産について学べるテキストを作成しては」などの提案があった。(佐藤健介)

世界文化遺産 11地域連携

きょうつ会議発足

京都や宇治、大津市など国内の世界文化遺産11地域の関係市町村やまちおこし、観光、文化財の専門家らが7日、東京で「世界文化遺産地域連携会議」を発足させる。長期的な保護策や魅力の発信など共通の課題について情報を共有し、国への要望活動などに協力して取り組む。

会議には、登録地域の関係22市町村の首長とNPOや観光業者、研究者ら約百人が参加する。会長には門川大作京都市長が就任する見通しだ。

会長に京都市長就任へ 観光担当者ら参加

11地域がそろい、官民で文化遺産を核にしたまちづくりや観光の在り方などを意見交換する初の場。来年の日本の世界遺産条約批准20年を前に、関西から連携を求める声が上がっていた。

活動の柱は▽地域の取り組みの共有▽支援拡充に向けた国や民間への働きかけ▽参加地域間の共同事業など。各地域への手厚い支援に向けた特別法の研究も始め、1年後をめどに国への要望をまとめる方針という。

(勝諭子)

世界遺産11地域 連携会議発足 保存活用で情報交換



門川大作京都市長(中央)らが出席し、課題を話し合った世界文化遺産地域連携会議(東京都千代田区・都道府県会館)

国内の世界文化遺産11地域で文化財保護や観光、まちおこしなどに携わる官民の関係者が7日、東京都内で「世界文化遺産地域連携会議」の発足会を開いた。文化遺産を守るための課題や情報発信の重要性などについて話し合

い、連携の大切さを確認した。発足会には、門川大作京都市長や久保田勇

宇治市長ら約50人が出席。設立趣意書採択の後、会長に選ばれた門川市長は「文化遺産を保存し生かすために何が一番大事か。地域や有識者との連携を加速し、成功例を交換しながら力強く前進したい」とあいさつした。続く意見交換で久保田市長は「共通、個別の課題に知恵を出し合いたい」と発言。NPO法人「遊悠舎京すずめ」の土居好江理事長は「自然に寄り添い共

生するという、未来の羅針盤となり得る日本人の知恵も伝えたい」と述べた。(勝聡子)

2011年(平成23年)6月7日(火)

毎 日 新 聞

世界遺産保護へ 22市町村が協力

連携会議発足

世界文化遺産を抱える自治体が7日、登録された文化財の保護や観光振興を図る「『世界文化遺産』地域連携会議」を発足させる。国内の世界遺産14件のうち11件が文化遺産で、関係する22市町村長が参加する。「古都京都の文化財」が登録されている京都市の門川大作市長が会長に就任する予定。世界文化遺産を巡っては、文化庁と自治体間の縦の関係が中心だったため、市町村同士の横の連携を強める。【木村健二】

2011年(平成23年)6月8日

水曜日

京

日

業

日

世界遺産、官民タッグ

「日光」「姫路城」や「原爆ドーム」など、国内にある11のユネスコ世界文化遺産の地元市町村長と観光事業者らでつくる「世界文化遺産地域連携会議」が7日、発足した。初会合を東京都内で開き、会長に就任した門川大作京都市長が「人類の財産である世界遺産を、地域が連携し、国民の責任として保存し生かしていく必要がある」とあいさつした。

世界文化遺産所在 首長ら会議発足へ

県内は那覇など5市村参加

国内11件の世界文化遺産の地元市町村長やまちづくりに携わる専門家らが6日、文化遺産の長期的な保護や観光活性化などを目指す「世界文化遺産地域連携会議」を発足させると発表された。7日に東京・平河町の都道府県会館で発足会を開く。

会議は「日光の社寺」のある栃木県日光市の斎藤文夫市長や「原爆ドーム」のある松井一実広島市長、県内からの那覇市、うるま市、今帰仁村、中城村、北中城村を含む22人の自治体首長のほか、まちづくりや観光振興に取り組むNPOや企業関係者、文化財関連の有識者など計約100人で構成。文化遺産を長期にわたり維持、保全していく方策や、文化遺産を生かした

地域活性化の取り組みについて情報交換などを行う。

世界遺産の保全強化に向けた特別法制定を働き掛けたり、省庁の枠組みを超えた支援体制の構築を求めたりすることも検討課題とし、1年後をめどに国への提言として取りまとめる考えだ。

7日の発足会では、門川大作京都市長が会長に就任し、①各市町村が持つ情報の共有や相互活用②世界文化遺産に対する国や民間による支援の促進などを柱とする設立趣意書を採択する予定。

世界遺産保護で連携

国内11件 地元首長らが初会合

国内11件の世界文化遺産

実施を目指す。

の地元市町村の首長やまちづくりに関わる専門家らが7日、文化遺産の長期的な保護や観光活性化などを目指す「世界文化遺産地域連携会議」の初会合を都内で開いた。各地域が抱える課題について意見交換を行い、1年後をめどに国への要望活動を行うほか、国内外でのPRなど共同事業の



会合では、門川大作京都

市長が会長に就任し、情報の共有や相互活用などを柱とする設立趣意書を採択し

た。門川氏は「文化遺産の保全や活用に向け、自治体も

縦割りを打破して協力しなくてはいけない。成功事例を交換しながら力強く前進

したい」と述べた。写真。

出席者からは「地域住民が誇りを持って遺産を守る

機運を高める」ことが重要

「世界遺産に限らず、さまざまな切り口で連携を進めたい」などの意見が出た。

会議は門川市長や「法隆寺地域の仏教建造物」がある奈良県斑鳩町の小城利重

町長ら22人の首長、まちづくりや観光振興に取り組む

NPOや企業関係者、文化財関連の有識者など計約1

00人で構成する。沖縄から那覇市、うるま市、今帰仁村、中城村、北中城村が参加する。

日経電子版 | 住宅サーチ | キャリア・教育 | オフタイム | 大人のレストランガイド

日本経済新聞

6月8日 水曜日

トップ | ニュース | 特集 | 連載・コラム | ランキング調査 | 社説・春秋 | more ▼

トップ > ニュース > 記事

世界遺産保護へ連携会議 関係首長ら

2011/6/6 22:24

小 中 大 印刷

国内11件の世界文化遺産の地元市町村長やまちづくりに携わる専門家らが6日、文化遺産の長期的な保護や観光活性化などを目指す「世界文化遺産地域連携会議」を発足させると発表した。7日に東京・平河町の都道府県会館で発足会を開く。

会議は「日光の社寺」のある栃木県日光市の斎藤文夫市長や「原爆ドーム」のある松井一実広島市長ら22人の自治体首長のほか、まちづくりや観光振興に取り組むNPOや企業関係者、文化財関連の有識者など計約100人で構成。文化遺産を長期にわたり維持、保全していく方策や、文化遺産を生かした地域活性化の取り組みについて情報交換などを行う。

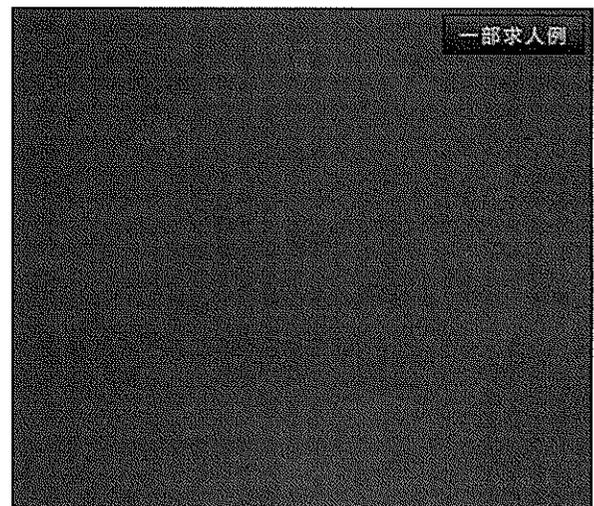
世界遺産の保全強化に向けた特別法制定を働き掛けたり、省庁の枠組みを超えた支援体制の構築を求めたりすることも検討課題とし、1年後をめどに国への提言として取りまとめる考えだ。

7日の発足会では、門川大作京都市長が会長に就任し、(1)各市町村が持つ情報の共有や相互活用(2)世界文化遺産に対する国や民間による支援の促進——などを柱とする設立趣意書を採択する予定。〔共同〕

小 中 大 印刷

ようこそ ゲスト様

日経平均	日経平均	日経平均	日経平均
日経平均(円)	9,441.33	-1.62	8日 14:0
NYダウ(ドル)	12,070.81	-19.15	7日 16:3
企業名または証券コードを入力	5,864.65		株価検索(無料)
ドル/円	79.93 - .96	-0.29円高	8日 13:4
ユーロ/円	117.17 - .20	-0.42円高	8日 13:4
長期金利(%)	1.155	±0.000	8日 13:2
NY原油(ドル)	99.09	+0.08	7日 終値



おすすめ情報

- エグゼクティブ向け求人をチェック
- 震災後にマイホームを持つリスク
- 大人のヘア:簡単華アレンジ技
- 個室で過ごす極上のひととき

エグゼクティブ

住宅

マリソル

レストラン

「日本の未来」が話題



約50人が参加した「世界文化遺産地域連携会議」の発足会＝7日午前、都内

世界遺産地域連携会議が発足

齋藤日光市長、副会長に

国内外で共同PR目指す

文化遺産の長期的な保護や観光活性化などを旨とする「世界文化遺産地域連携会議」の発足会が7日、東京・平河町の都道府県会館で開かれた。門川大作京都市長が会長に、齋藤文夫日光市長ら5人が副会長に就任した。今後は意見交換を行い、1年後をめどに国への要望活動を行うほか、国内外でのPRなど共同事業の実施を目指している。

役員選任後、門川会長は「遺産を千年後に伝えていくためにも各自治体が一致団結し、前進していきたい」と抱負を述べた。日光市長代理で出席した同市の海老原忠観光交流課長は「合併で観光資源が増えたが日光社寺が中心であることに変わりはない。内部だけで解決できない問題もある。皆さんの力をお借りしたい」と語った。また、民間の立場で参加したNPO法人「日光前まちづくり」の岡井健理事長は「情報交換に期待してい

る」と話した。会議は法隆寺や姫路城など国内11件の世界文化遺産に関係する地元首長22人のほか、まちづくりや観光振興に取り組むNPO、企業関係者、文化財関連の

有識者など約100人で構成している。

(高橋淳)